

地理歴史科・公民科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 恐慌の時代と軍部の台頭
この単元は、「2 内容」の「C 国際社会の変化や大衆化と私たち」の「(3) 経済危機と第二次世界大戦」の「ア」に該当する。

2 単元目標

- (1) 経済危機を背景とした国際協調体制の動揺と独裁勢力の台頭について理解する。
- (2) 各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因、独裁勢力が台頭した背景などを多面的・多角的に考察し、表現する。

3 単元計画(全体5時間)

(1) 指導計画

- ・世界恐慌と独裁勢力の台頭 2時間
- ・日本のアジア進出 3時間（本時3／3）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・経済危機を背景とした国際協調体制の動揺と独裁勢力の台頭について理解している。	・各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因、独裁勢力が台頭した背景などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・現代の諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について、よりよい社会の実現を視野に入れて、見いだした課題を主体的に追究しようとしている。 ※大項目C全体の評価規準として想定

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

時 限	学習内容	ねらい・学習活動	評価の 観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
1	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【学習課題】<単元を貫く問い> 「世界恐慌と国際協調の動揺について内容を整理した上で、ファシズムが支持を集めた背景を理解し、その要因を考察する。」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌と独裁勢力の台頭(1) 	【ねらい】 世界恐慌に対する各国の対応を理解する。 ・教師の解説を聞き、授業プリントに板書やポイントを書き取る。 ・世界恐慌に対する各国の対応を整理し、記述する。	●		●	(B) 世界恐慌に対する対応について、各国の違いを整理して説明をしている。 (C) 理解の早い生徒に他生徒へ教えるよう指示する。また、整理した内容について簡単な意見交換を行わせる。	・授業プリント ①のメモの取り方と学習課題の記述を基に評価する。
2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【学習課題①】<問い> 「ドイツやイタリアで、ファシズムが国民の支持を集めたのはなぜか。」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌と独裁勢力の台頭(2) 	【ねらい】 「経済危機」「大衆化」「国際情勢」の三つの視点を踏まえて、ファシズムが伸長した背景を理解する。 ・ワークシートを基にジグソー学習を行う。	○		●	(B) 5「評価問題(評価材料)及び評価規準」の(1)を参照 (C) 日本の動向にも類似点があったことを補足する。	・ワークシート ①の内容と学習課題の記述を基に評価する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のアジア進出(1) 	【ねらい】 辛亥革命以降の中国の状況と、それに連動した日本の満州権益をめぐる動きについて理解する。 ・教師の解説を聞き、授業プリントに板書やポイントを書き取る。 ・学習課題について考察する。	●		●	(B) 満州権益が、慢性的な不況の状況で、日本にとって重要性が増したことを理解している。 (C) 関東軍の動きに対する日本政府の姿勢について、次回の授業に向けて補足する。	・授業プリント ②のメモの取り方と学習課題への取り組み状況を基に評価する。

4	<p>【学習課題②】〈問い〉 「恐慌を背景に広がる社会不安の中、日本の政治はどのように変化したか。そしてその変化を国民はどうとらえたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本のアジア進出 (2) 	<p>【ねらい】 恐慌が日本の政治に与えた影響について、軍部の台頭を中心に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題に取り組む。 次回のジグソー学習のエキスパート班に分かれ、各班の資料に目を通す。 	●	●	<p>(B) 国内の政治状況の変化について、軍部の台頭を踏まえて記述している。</p> <p>(C) 理解の早い生徒に他生徒へ教えるよう指示する。また、次回の資料について、グループごとに簡単な意見交換を行わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント②のメモの取り方と学習課題の記述を基に評価する。
5	<p>【学習課題③】〈問い〉 「なぜ満州事変は引き起こされたのか。そして日本はなぜ連盟を脱退したのか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本のアジア進出 (3) 	<p>【ねらい】 前回の授業のうち、特に満州問題について、「国民」「国際社会」「政府」の視点から考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートをもとにジグソー学習を行う。 	○	●	<p>(B) 5「評価問題（評価材料）及び評価規準」の(2)を参照</p> <p>(C) 他の事象にも類似点があったことを補足する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート②の内容と学習課題の記述を基に評価する。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

満州問題について、「国民」「国際社会」「政府」の視点から考察する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> A・B・Cそれぞれの班ごとに着席する。 タブレットを机上に用意し、前回までにロイロノートで配付した資料を参照したい生徒は、タブレットを起動する。 本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各班3人程度まで 授業前に全員がタブレットを机上に用意しておくように指示する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> エキスパート学習 ジグソー学習 意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 各班で資料を読解し、課題に取り組む。 A・B・Cが分散する形で、ジグソー班に分かれる。 各ジグソー班で、A・B・Cの資料について説明・共有する。 各資料を踏まえて、学習課題についてジグソー班で考察する。 各ジグソー班の代表者が、考察した内容についてロイロノートに提出し、画面上で各班の意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識するよう、こまめに経過時間を伝える。 ジグソー班も3人程度 ●活動の様子 (主体的に学習する態度) 共有の操作をする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で学習課題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行う。 ○ワークシートの記述内容 (思考・判断・表現)

(3) 本時の評価規準(5「評価問題（評価材料）及び評価規準」の(2)を参照)

5 評価問題（評価材料）及び評価規準

(1) 学習課題①（2 限目）【知識・技能】

・ドイツやイタリアで、ファシズムが国民の支持を集めたのはなぜか。
評価規準
「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・ファシズムの伸長について「経済危機」「大衆化」「国際情勢」の三つの視点のうち、二つを踏まえた説明をしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・ファシズムの伸長について「経済危機」「大衆化」「国際情勢」の三つの視点のすべてを踏まえた説明をしている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・ファシズムの伸長について、複数の視点を踏まえることができず、一つ以下の視点から記述している。 →個別に添削指導を行う。

(2) 学習課題③（5 限目）【思考・判断・表現】

・なぜ満州事変は引き起こされたのか。そして日本はなぜ連盟を脱退したのか。
評価規準
「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・満州問題について、「国民」「国際社会」「政府」の三つの視点のうち、二つを踏まえた記述をしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・満州問題について、「国民」「国際社会」「政府」の三つ視点のすべてを踏まえた記述をしている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・満州問題について、複数の視点を踏まえることができず、一つ以下の視点から記述している。 →個別に添削指導を行う。

6 成果と課題

新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」では、生徒が習得した「知識・技能」を活かし、「思考・判断・表現」する力を伸ばしていく過程で、学びに対する主体性をもたせることが求められる。しかし、本校生徒の多くは高校地歴公民科の前提となる知識を中学までに身に付けておらず、また多面的な思考に困難を示すことが多い。さらに勉強への苦手意識から、「ただ覚えるだけ」なら何とか取り組むが、「覚えたものを基に考え、表現する」というマルチタスクを求めると、始めから諦めてしまう。新学習指導要領で求められることをそのままやろうとしても、本校生徒には負担が重い。結果、3 観点の評価するための授業計画を立てても、途中で挫折し、定期考査で暗記させて点数を取らせ、少し論述の問題を出す、従来通りのものになることが課題だった。

上記の課題に対応するために、当該クラスでは、まず「暗記させる」ことを諦めた。その代わりに、資料の持ち込みを可とする考査を実施し、考査に向けて、記述を中心とした学習課題を継続的に取り組ませることとした。生徒に対しては年度当初から、「暗記は求めない。まず授業内容を正確に理解し、プリントを整理する。そして理解したこと・考察したことをしっかり表現できることを目標に1 年間授業をする」と発信し続けた。

「暗記を求めない」という言葉に生徒は初め安堵したが、その言葉と裏腹に、論述中心の考査問題は彼らにとって想像以上に難しかった。当初は授業を従来通りただ聞くだけで、日頃の取組みも不十分だった。考査前の勉強方法もわからず、考査の点数も伸びなかった。

学習意欲が低下している生徒に対し、できないことを指導することは避けた。そして日頃の頑張りや少しでも表現できた部分を積極的に評価し続けた。また、あえてこちらが正解を示すのではなく、理解度の差を利用し、理解力のある生徒に教師役をやらせたり、ジグソー学習を定期的に取り入れたり、生徒相互に学び合う機会を増やした。9 月からは学校に導入されたタブレット端末を利用し、ロイノートで意見や資料の共有を行った。考査前には、授業の1 時間を使って考査範囲の内容を1 度整理し、必要なことがプリントに書き込んであるか、また逆に不必要な情報はないか、過不足なく資料を持ち込もうとしているかなどを確認した。

こうした取組を粘り強く続けた結果、記述問題やジグソー学習では徐々に全員が前向きに取り組むようになった。考査の結果を受けて後ろ向きになっていた生徒も、課題を示すためらうことなく取り組むようになった。本時の評価問題は、今年度の中で最も難題だったが、参加生徒全員がしっかりと記述し、別紙「ワークシート・資料編」でも示したような、高度な解答も数点見られた。

生徒が前向きになった理由として、第一に、やるべきことを、年間を通して一本化したことがある。そうすることで、生徒が年間を通した自分の変化に気付きやすくなり、徐々に力が付いていることを可視化でき、モチベーションにつなげることができた。第二に、生徒に後ろ向きな言葉をかけなかったことがある。どんなに悪い点数をとっても、必ずよい部分を見つけ、褒めることに徹した。第三に、教員から教授するだけでなく、生徒同士で学び合う機会を増やしたことがある。教員から教わるより、生徒同士の方が素直に聞き入れることが多く、また教える側も自分の理解度を確認することができ、内容が多い単元ほど、効率的に学習を進めることができた。

課題は、評価問題での解答時間が想定以上にとられたこと、そして意見の共有がロイロノート上で効率よく行えず、生徒の解答にどこまで生かすことができたのかが曖昧だった点である。本校でも9月から生徒用タブレットの活用が進んでいるが、教員・生徒とも十分に使いこなせていないため、教科を越えた活用事例の共有や研修の機会を積極的に設けるべきだと考える。タブレットが効率よく活用できれば、上記二つの課題の解決に役立つであろう。

このような授業を実施していくに当たり、内容をかなり精選した。また、生徒相互に学び合う場面も多かったため、「歴史総合」の内容として十分だったか、そして生徒に任せた部分はしっかり正しい理解をしているのかなど、不安が残った部分はある。しかし、新学習指導要領の目標を踏まえると、内容や理解の仕方にあまりこだわりすぎてはいけないと考える。教えるべき単元や教授方法を思い切って変えていかなければ、今までの一方的な授業や定期考査に偏重した評価方法から、いつまでも抜け出せない。切るべき内容ははっきり切り、「歴史を通して考えてほしいこと」を伝えることの方が重要であり、そうしなければいつまでも歴史は暗記科目となってしまう。本当の意味で生徒に「歴史は面白い」と思わせることはできず、主体的にさせられないのでは、と考える。

また、先にも述べたとおり、本校生徒は勉強に対する苦手意識が強い。しかし、そのような生徒でも、こちらができないと決めつけないことが大切である。学習に困難を示す生徒が多い学校において、新課程で求められることを実現するためには、まず目標を明確にし、多くのことを求めすぎず、生徒がやるべきことや達成すべきことを思い切って単純化する必要がある。そして考査の形式や問いを工夫した上で、前向きな言葉をかけ続けられれば、主体的に学習を深めることができると考える。

7 参考文献

- ・『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（加藤陽子、朝日出版社、2009年）
- ・『シリーズ日本近現代史⑤ 満州事変から日中戦争へ』（加藤陽子、岩波新書、2007年）
- ・小川幸司『世界史との対話（下） 70時間の歴史批評』（地歴社、2012年）
- ・教科書『わたしたちの歴史 日本から世界へ』（山川出版社、2021年）
- ・『図説 日本史通覧』（帝国書院、2014年）